

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成 年 月 日

協議会名： 蒲郡市地域公共交通会議

評価対象事業名： 地域内フィーダー系統

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)	
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価	【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
株式会社かね一自動車	形原地区支線バス 左回りルートA (ユトリーナ経由なし)	前回評価で、計画通り実施できていた。継続して安定した事業の実施を目指す。	A	計画通り事業は適切に実施できている。	B	数値目標は便当たり3.6人で設定。実績は3.0人/便であり、他のルートの中で最も悪い。 当該ルートは、朝一番早い便。鉄道との接続利用による使い方をPR対応していく。
株式会社かね一自動車	形原地区支線バス 左回りルートB (ユトリーナ経由あり)	同上	A	同上	A	数値目標は便当たり3.6人で設定。実績は5.6人/便であり、目標達成。 左ルートの2・3便で、利用の多い時間帯。事業を継続し、利用促進を進める。
株式会社かね一自動車	形原地区支線バス 右回りルート	同上	A	同上	A	数値目標は便当たり3.6人で設定。実績は4.9人/便であり、目標達成。 右ルートの1・2便は利用の多い時間帯、3便は全体の最終便で最も利用が悪い(1.9人/便)。利用促進を進める。
						事業全体の数値目標は、3事業合わせて3,360人と設定しており、4,517人で十分目標値は達成している。 事業3年度目を契機に中間評価を行い、停留所位置、ダイヤを見直し、利便性を高める対応を行う。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

平成 年 月 日

協議会名:	蒲郡市地域公共交通会議
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>第四次蒲郡市総合計画においてあげられた「子どもや高齢者らが安心して移動することのできる公共交通体系の確立」、「地域で創り、守り、育てあげる持続性の高い公共交通体系の形成」を目指し、公共交通体系を一体的に改善することを目標とした地域公共交通総合連携計画を平成26年3月に策定した。関連法の改正をふまえ、当該計画を見直し、蒲郡市地域公共交通網形成計画として平成28年3月に策定している。</p> <p>計画の中で位置付ける取り組みとして、「鉄道を中心とした交通ネットワーク網の維持確保と交通空白地の解消」、「交通空白地解消のための実験的取組等の実施」、「地域資源の活用・関係者間の連携強化による事業推進」、「公共交通の利用を促す働きかけ活動の実施」を想定している。</p> <p>これら取り組みを通して、交通ネットワーク網の維持確保を目指し、地域公共確保維持改善事業の支援を受けて、「交通空白地解消のための形原支線バス(フィーダー)」の運行を進める。</p>

平成29年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（全体）

蒲郡市地域公共交通会議

平成25年3月1日設置

フィーダー系統 平成28年6月17日 確保維持計画策定

■ 地域の特性と背景

- 蒲郡市は三河湾の海岸線に沿って東西に長く、平野を取り巻くように山地が分布しており、平野部を走るJR東海道本線、名鉄西尾・蒲郡線を軸として、まとまった市街地が形成されており、そこへ通じる交通機関として、路線バス、タクシーなどがある。しかし市の北部、特に山間部を始めとする平野部以外には公共交通空白地域が広がっており、この空白地域の早期解消が必要となっている。
- モータリゼーションの進展に伴い、市内の公共交通利用者は減少し、公共交通事業者の経営が圧迫され、公共交通事業者に任せているだけでは、地域が必要とする公共交通サービスを確保することが難しくなっており、このため蒲郡市では、交通サービス維持のため交通事業者に対し支援を行っているが利用は伸びず、バス路線の廃止、名鉄西尾・蒲郡線の存続問題と地域の公共交通体系に綻びがでてきている。
- こうした背景のもとで第四次蒲郡市総合計画において「子どもや高齢者らが安心して移動することのできる公共交通体系の確立」、「地域で創り、守り、育てあげる持続性の高い公共交通体系の形成」を目指し、公共交通体系を一体的に改善することを目標とした地域公共交通総合連携計画を平成26年3月に策定した。
- 交通空白地解消のための地域内フィーダー路線の構築
- 「地域公共交通総合連携計画」において、交通空白地解消のため、中学校区単位程度で「地域協議組織」が設置された地域については、当該組織での協議を通してフィーダー路線構築を行うこととしていた。これにより、蒲郡市の南西部に位置する「形原地区」において、地域協議組織が設置され、地域主導でのフィーダー路線の事業構築が行われた。
- こうした取組みにより、平成27年4月2日より「形原地区支線バス」の実証運行が開始され、平成27年7月より蒲郡市地域公共交通会議での協議を経て、地域内フィーダー系統として位置付け、本格的に運行を開始した。
- 平成28年6月には、関連法の改正をふまえ、地域公共交通総合連携計画を見直し、「蒲郡市地域公共交通網形成計画」を作成し、地域内フィーダー系統の「形原地区支線バス」はそのまま事業を継続し、運行を行っている。

■ 計画の将来像及び期間

● 蒲郡市地域公共交通網形成計画の将来像

- 子供や高齢者らが安心して移動することのできる公共交通体系を構築する。
- 地域で創り、守り、育てあげる持続性の高い公共交通体系を構築する。

● 計画期間

- 平成28年度～平成32年度（5カ年）

■ 公共交通の基本的な方針

- 鉄道を中心とした交通ネットワーク網の維持確保と交通空白地解消のための取り組みを行う。

■ 計画の目標

- 住民ニーズをふまえた公共交通ネットワーク網の構築を目指す。（鉄道・民間路線バス）
- 交通空白地解消のための新たな支線路線の拡充を目指す。（フィーダー系統：形原支線バス）

■ 公共交通ネットワークイメージ

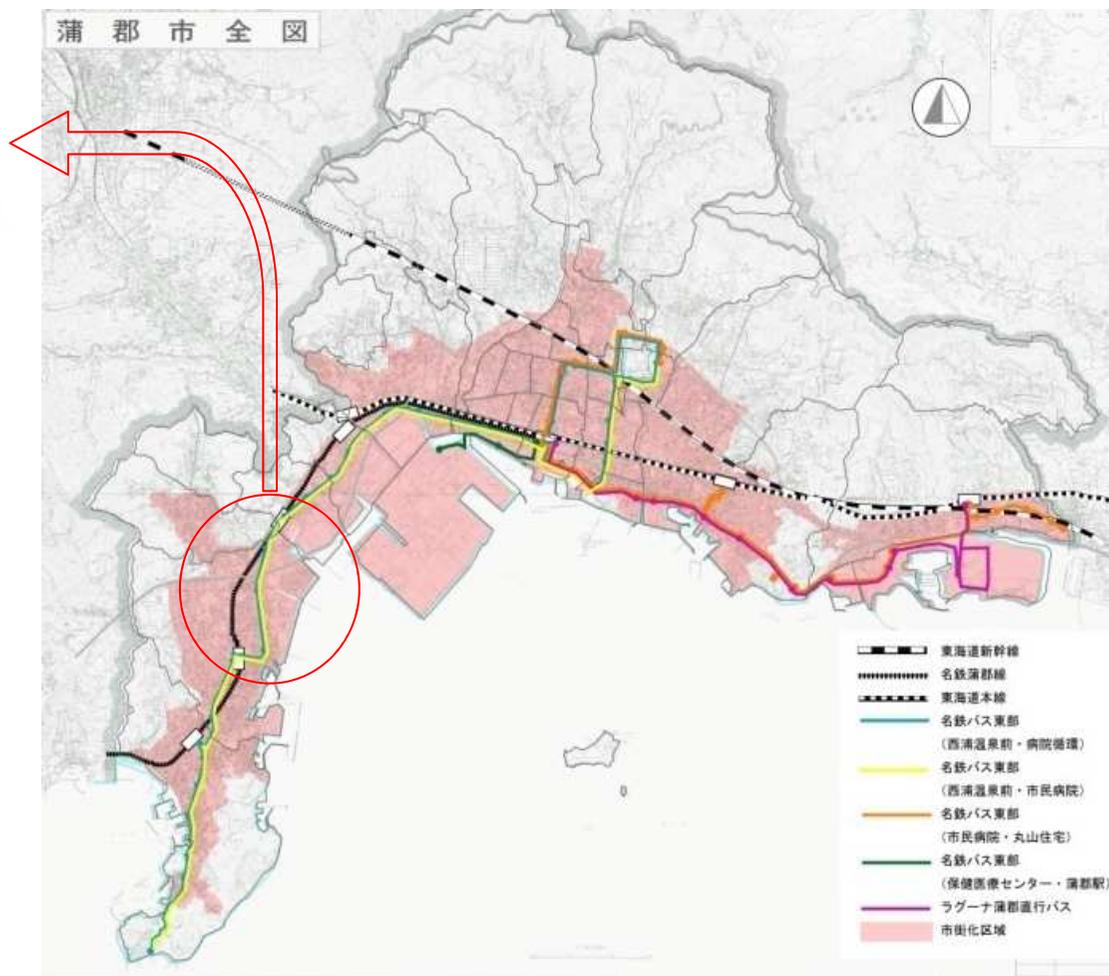


形原地区

(交通空白対応のモデル地区として選定し実施)

蒲郡市全体の交通網

- ・平野部・臨海部に鉄道、路線バスが運行。
- ・山間部を含むその他エリアで交通空白問題がある。



■ 交通網形成計画における評価の考え方

- 基本的考え方=持続性のある公共交通の確保を目指し、事業管理制度（PDCA）の導入による適切な事業運営を目指す。

■ 交通網形成計画における「目標値」の設定内容

- 既存の交通ネットワーク網の維持確保と交通空白地解消による「移動環境」を向上させるための目標管理
 - 既存の公共交通の利用者数 = 現状値に対して人口変動率対比でプラスを目指す
 - 交通空白地で新たに導入する支線的バス・タクシーの利用者数 = 前年比プラスを目指す
- 関係者間の連携による公共交通を「支える仕組み」の強化のための目標管理
 - 地元協議組織の設置箇所数 = 現状の1箇所から3箇所に増やす。
- 「困っている人」を助けるための目標管理
 - 人口カバー率（サービスを提供できている人口割合） = 10%の増加 （計画終了時）
 - 日常の移動に不便を感じている人の割合 = 現状値の35.3%を30%に削減 （計画終了時）

■ 平成29年度 生活交通確保維持改善計画（フィーダー系統の評価基準）

- 年間利用者数3,360人以上を目指す。

1) 取組み経緯（平成27～29年の取組み）

■交通計画の見直し

- 地域公共交通網総合連携計画にて計画推進を行っていたが、関連法の改正をふまえ、蒲郡市地域公共交通網形成計画への見直しを交通会議にて協議した。
- 網形成計画（案）に対して、平成28年4月1日～5月2日までパブリックコメントを実施し、市民意見を反映した計画として、網形成計画を平成28年6月に策定した。
- 当該計画にて、鉄道・民間路線バス・フィーダー系統などからなる交通ネットワーク網の維持や、事業推進に係る関係者の行動指針の構築などを旨とする。

■平成29年度生活交通確保維持改善計画

- フィーダー系統として形原地区支線バスを位置づけ、地域主体「形原地区公共交通協議会」主導のもと、事業推進・利用促進策等を進めていく。

2) 目標を達成するために行う事業・実施主体

①交通空白地の解消（事業主体：形原地区公共交通協議会、蒲郡市）

【補助対象事業】

- 地域公共交通確保維持改善事業（平成29年度）
（フィーダー系統補助：形原地区支線バス）

【非補助事業】

- 地元協議組織の構築に向けた地域対応（塩津、三谷等）

②公共交通利用促進事業（事業主体：蒲郡市、交通事業者、地域組織）

【非補助事業】

- 蒲郡市地域公共交通事業の推進に係る行動『指針』の策定（交通会議）
- にしがま線げんき戦略の作成（名鉄西尾・蒲郡線活性化協議会）
- 路線バスで行ける施設マップの配布（路線バス事業者）
- 形原地区支線バス協賛募集事業の検討（形原地区公共交通協議会）

■ 市のネットワーク全体の評価「鉄道の評価」

- 名鉄西尾・蒲郡線については、平成28年度の年間輸送人員は、3,359千人となっており、対前年比0.8%の増加した。市民主体の応援団等による利用促進活動により利用者は増加傾向にある。
- にしがま線げんき戦略における年間輸送人員の目標設定としては、平成28年度は3,395千人としており、当該目標については、3万6千人達成できていない。年間365日・70本/日の運行状況にあるため、1便当たり1.4人の減少に相当する。沿線地域の人口減少を食い止める対応、利用促進が重要と言える。

■ 名鉄西尾・蒲郡線（西尾～蒲郡間）の輸送人員及び輸送密度の推移

（単位：千人／年、人／日）

種別	年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	前年比	19年度比
	輸送人員 (千人/年)	通勤	663	683	722	728	733	738	758	772	826	829	0.4%
通学		1,487	1,511	1,531	1,581	1,593	1,625	1,717	1,625	1,699	1,709	0.6%	14.9%
定期計		2,150	2,194	2,253	2,309	2,326	2,363	2,475	2,397	2,525	2,538	0.5%	18.0%
定期外		777	800	786	762	746	757	767	776	808	821	1.6%	5.7%
合計		2,927	2,994	3,039	3,071	3,072	3,120	3,242	3,173	3,333	3,359	0.8%	14.8%
輸送密度 (人/日)		2,772	2,767	2,765	2,767	2,715	2,730	2,814	2,741	2,862	2,889	0.9%	4.2%

■ 適切に事業が実施できたか

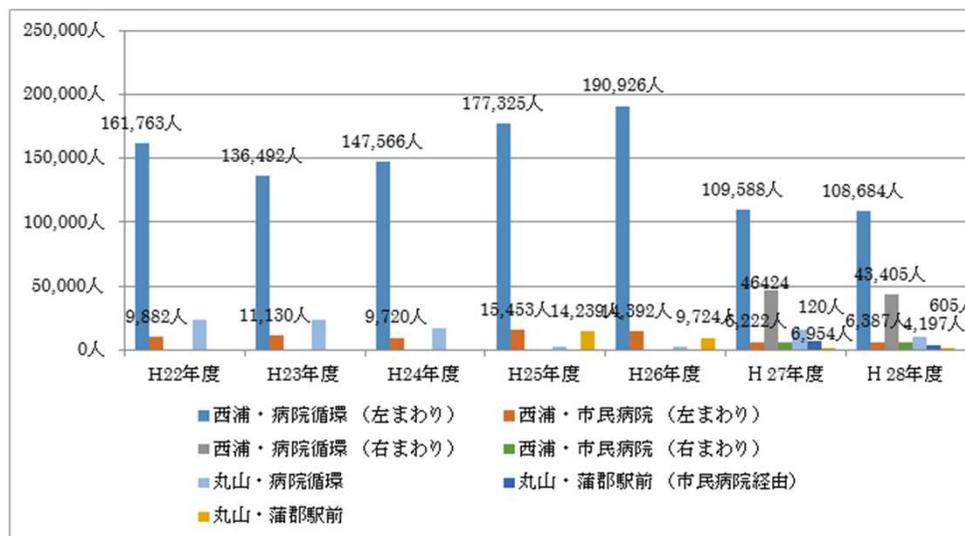
- フィーダー系統・形原地区支線バスは、平成29年4/1・4の2日間、交通事業者における一般乗合旅客運行管理者（有資格者）の退職を要因とした運行中止が発生した。運行管理者の交代・住民利用者への運行中止案内等の対応により、迅速な運行再開を行う。
- 運行中止の対応には、地域主体「形原地区公共交通協議会」の幹事役員が自ら住民利用者への周知を行い、事業継続の支援が行われている。
- 「形原地区公共交通協議会」は、定期的開催され、利用状況の確認、ルート等の見直し協議など、事業維持・改善に向けた検討が行われている。
- こうした取り組みを通して、フィーダー系統・形原地区支線バスは適切に事業実施できていると判断する。

■ 市のネットワーク全体の評価

「路線バスネットワークの評価」

● 既存バスネットワークの評価

- 地域公共交通総合連携計画において路線バスの事業評価指標は「利用者数（前期比プラス）」とすることを事前設定している。**地域公共交通会議、その下部組織である地域バス協議会での協議を実施し、平成27年4月、平成29年4月の2度にわたり、ダイヤ改正を行った。**
- **平成28年度、4月のダイヤ改正以降も、利用者数の減少は歯止めがかかっていない。引き続きモニタリングを継続し、評価・改善に繋げていく。**



● 蒲郡市支援路線の利用実績推移 (年度)

	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度
利用者数	196,996人	173,082人	175,952人	211,575人	218,778人	191,738人	179,548人
対前年比	116%	88%	102%	120%	103%	88%	94%
1便当たりの利用者数	19.5人/便	17.1人/便	17.4人/便	20.0人/便	20.7人/便	21.3人/便	20.0人/便
対前年比	116%	88%	102%	115%	104%	103%	94%

● 平成29年4月のダイヤ改正以降

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	半期
小計	16,490人	16,725人	24,357人	19,097人	17,496人	16,638人	110,803人
前年	18,117人	17,991人	23,877人	18,760人	18,760人	16,751人	114,256人
前年比	91.0%	93.0%	102.0%	101.8%	93.3%	99.3%	97.0%

■ ネットワークに接続する「フィーダー系統の評価」

- 生活交通確保維持改善計画に掲げられた目標値についての評価
 - 生活交通確保維持改善計画に掲げていた目標値に対して、利用実績は上回り、目標を達成している。
 - 地域公共交通網形成計画での目標は、人口変動率対比でプラスとしており、利用者数は増加傾向にあり、網形成計画での目標も達成できている。

	平成28年度 (H27/10~H28/9) 利用実績	平成29年度 (H28/10~H29/9) 目標	平成29年度 (H28/10~H29/9) 利用実績
形原地区支線バス 年間利用者数	3,549人	3,360人	4,517人
1 便当たり（年間924便）	3.8人/便	3.6人/便	4.9人/便

- 地域全体の公共交通網を踏まえた評価（幹線系統への影響）
 - 当該フィーダー系統は、鉄道（名鉄三河鹿島駅・形原駅）に接続している。両駅の乗降者数（平成28年4月～10月）は、三河鹿島駅で190人/年（+77人増）、形原駅で115人/年（+61人）となっており、前年同期比で増加している。鉄道の利用促進に寄与していると考える。
- 交通空白地の対応（地元協議組織の設置個所数）
 - 昨年度に引き続き、東部地区・北部地区等への働きかけを行うものの、協議組織の立ち上げまでには至っていない。

■ 公共交通に関する住民アンケート調査結果（概要）

● 調査概要

- ・ 満16歳以上3,000人対象。郵送配布・郵送回収方式。平成29年9月12～25日（前回平成25年9/9～10/11）。
- ・ 回収数：1,159票（回収率38.6%）・・・（前回6000人に配布：2,360票回収（39.3%））

● 調査項目

- ・ 公共交通に対する評価、バスの利用実績・満足度、将来的な公共交通のあり方等

● 主な調査結果

➤ 公共交通に対する評価（日常の公共交通での移動における不便の有無）

- ・ 「感じている」と「やや感じている」が34.6%で、3人に一人が移動に不便を感じている。（前回35.3%）

➤ バスの利用実態とその満足度

- ・ 「ほとんど乗らない」が85.4で多数を占め、**「利用する人」は全体の11.5%（前回8.3%）にとどまる。**
- ・ 「現状のバスサービス水準の満足度」は、「満足・おおむね満足」が35.1%、「やや不満・不満」が46.3%で、**不満が上回る。**（前回：満足44.2%、不満45.2%）

➤ 将来的な公共交通のあり方

- ・ 「公共交通を維持するための税金投入額に対する評価」は、「妥当」との回答が31.1%、「多すぎる・やや多すぎる」が50.8%、「やや少なすぎる・少なすぎる」が2.7%となっており、多すぎるとの意見が多い。（前回：妥当26.4%、多すぎる58.8%、少なすぎる1.7%）
- ・ 「公共交通中心の生活への転換する年齢」は、「70～74歳」が23.5%（25.2%）、「75～79歳」が25.2%（27.0%）、「80～84歳」が26.7%（22.2%）と多いものの、**前回調査（括弧表記）と比べ高年齢化が進展。**

■ 4年間の間で、公共交通の利用者は3%の微増が見られた一方で、サービス満足度は悪化。

■ 税金投入額は妥当との回答が増えているものの、公共交通への転換は高年齢化し、改善していない。

■ 名鉄バス東部路線バスと形原地区あじさいくるりんバス利用者アンケート調査結果（概要）

● 調査概要

- 路線バス・形原バス利用者。直接配布・郵送回収方式。平成29年9月28～30日配布、10月15日回収分。
- 回収数：名鉄バス117票（回収率29.8%）、形原バス28票（80%）

● 調査項目

- 利用実態、サービス満足度、サービス水準に関する考え、要望等

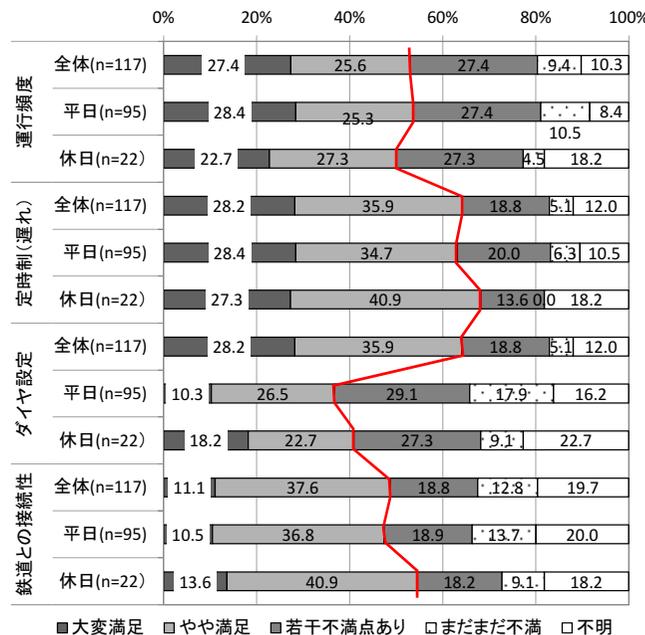
● 主な調査結果

➤ サービス満足度

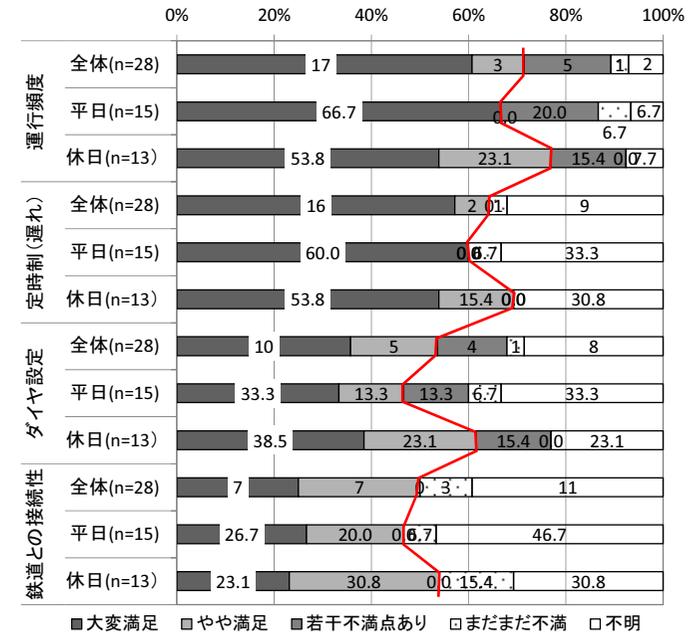
- 満足との回答が60%を超えているか確認すると、路線バスは定時制のみ高く、その他項目は低い。
- 形原バスでは、

運行頻度、定時制の項目は高かった。
満足度の低い、ダイヤ設定や鉄道との接続性等について、それぞれ改善の余地がある。

名鉄バス東部路線バスの満足度



形原地区あじさいくるりんバスの満足度

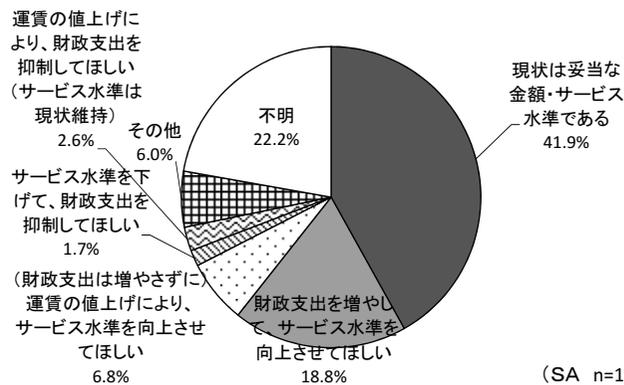


● 主な調査結果

➤ 財政支出とサービス水準に関する考え方

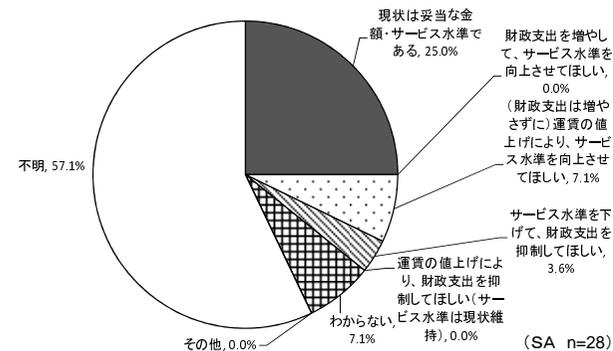
- 路線バスの利用者は、「回答不明者」は少なく、「現状は妥当な金額・サービス水準である」を41.9%の方が選択している。ただ、約2割の人が「財政支出を増やし・サービス向上」を選択している。
- 形原バスの利用者は、「回答不明者」が過半数を占め、今後の対応について意思表示がされていない。回答のあった中では、「現状は妥当な金額・サービス水準である」が25%となっている。

名鉄バス東部路線バスの考え方



(SA n=117)

形原地区あじさいくるりんバスの考え方



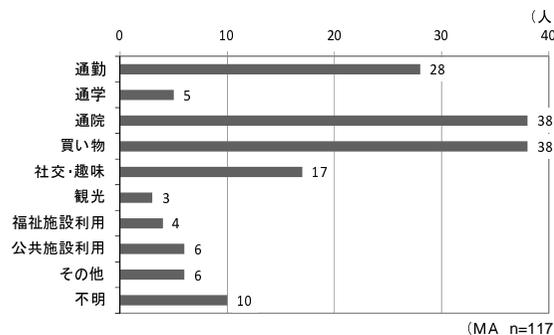
(SA n=28)

➤ 利用目的

■ 路線バスの利用者の中に、通勤利用者が3割含まれること、使用車両からバスのイメージが強いため、満足度・財政投入拡大等、より厳しい意見が多い傾向が認められた。

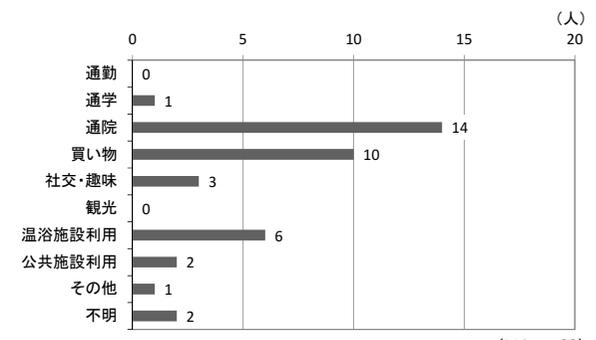
■ 形原バスについては、財政支出とサービス水準の考え方に対して回答不明者が多く、事業に対して適切な評価（意見）が示されていない。

名鉄バス東部路線バスの利用目的



(MA n=117)

形原地区あじさいくるりんバスの利用目的



(MA n=28)

<自己評価から得られた課題>

①公共交通全体の課題（鉄道）

- 名鉄西尾・蒲郡線については、今年度の取り組みとして、市民まるごと赤い電車応援団等による利用促進活動を実施した。
- その結果、利用者は増加傾向（対前年比0.9%増）にあるものの、にしがま線元気戦略の目標設定は達成できていないため、さらなる利用拡大に向けた取組が必要である。

②公共交通全体の課題（路線バスネットワーク）

- ラグーナ無料シャトルバスの導入による影響の対処として、路線バスは平成27年4月1日にダイヤ改正を行った。
- 平成28年度（4-3月）1年間、4月ダイヤ改正以降の半期の利用者数は対前期比で減少しており、利用者の減少に歯止めがかかっていない。
- 利用者アンケート調査結果からも、ダイヤ設定や鉄道との接続性等で満足度が低いため、利用者ニーズへの対応が必要とされる。

③ネットワークに関する課題（交通空白地対応）

- 今年度は、交通空白の懸念のある「東部地区・北部地区」の総代等と協議し、フィーダー系統の導入意向を確認した。
- 形原地区をモデルに他地域への展開を想定しているが、他地域での「協議体の設置」までは進んでいない。

④フィーダー系統に関する課題（目標達成）

- 病院の新設に伴う停留所の新設・ルート変更を実施した（平成29年2月）。
- 利用者アンケート調査からは、ダイヤ設定や鉄道との接続性等で満足度が低い。
- 形原地区支線バスの目標管理について、前年度に比べ利用者数は増加し、全体の利用者数は達成できているが、6便の内、最初と最後の便の利用が少なく、便によるばらつきがある。
- フィーダー系統・形原地区支線バスの事業継続面の自己評価項目として収支率を設定しているが、広告収入の導入を行ったが、収支率2割の目標は達成できていない。本格運行化を念頭に収支率の改善対策などの、事業改善が必要とされる。

<今後の取り組み>

①鉄道の対応

- 市民まるごと赤い電車応援団等による利用促進活動を継続実施。

②路線バスの対応

- 利用者アンケート調査結果を交通事業者と共有し、事業改善・利用促進方策について協議する。

③交通空白地対応

- 形原地区の先行的取り組みを情報発信し、交通空白の懸念地域へのアプローチを継続する。

④フィーダー系統の対応

- 利用頻度の低い停留所の見直しによるルート・ダイヤの改善と収支率向上のための方策検討を行う。

平成29年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（経緯）

蒲郡市地域公共交通会議

平成25年3月1日設置

フィーダー系統 平成28年6月17日 確保維持計画策定

直近の第三者評価委員会 における事業評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
<p>○H27年度二次評価 形原地区支線バスは、目標を達成していないことから、引き続き形原地区公共交通協議会と協働して利用促進策を実施する必要があります。 今後は地域公共交通網形成計画が策定されることを期待します。</p>	<p>○利用促進活動 形原地区公共交通協議会を通して、下記対応実施。 <ul style="list-style-type: none"> •意見箱の設置 •PRちらしの作成・配布 •ポケット時刻表の作成 •停留所の見直し検討 など</p> <p>○交通網形成計画 蒲郡市地域公共交通網形成計画を平成28年6月に策定した。</p>	<p>○利用者増に向けた対応</p> <ul style="list-style-type: none"> •病院が開院する予定で、病院への乗り入れ、停留所の移設・ルート見直しを行う。 •協賛制度の検討、導入を図る。 •赤い電車の利用促進活動との連携を図る。 <p>○PDCAの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> •形原地区公共交通協議会にて利用促進に向けた取り組み内容を協議するとともに、定期的に事業評価を実施する。
<p>○平成29年度実施予定</p>	<p>→指摘をふまえて検討予定</p>	<p>→同左</p>

■ 「あいちエコモビリティライフ」の推進団体として表彰される

- 愛知県が推進する「あいちエコモビリティ」の推進団体として平成27年9月に、「形原地区公共交通協議会」が選定され、表彰される。
- 選考委員の主なコメント「地域主体で強い熱意をもって検討され工夫されたことが良い結果につながっている。他の模範となるべき取組である。
- 平成29年度には、「市民まるごと赤い電車応援団」も推進団体として受表彰され、バス・鉄道ともに地域での利用促進の取り組みが高く評価されている。



■ 名古屋大学主催「公共交通セミナー」の事例として紹介される

- 名古屋大学主催、中部運輸局共催の公共交通セミナー（H28/5/16）の「公共交通空白地有償運送」の事例として、紹介・発表する機会をいただく。
- 「公共交通不便地域で『くらしの足』を地域自らが確保する方法」というテーマのセミナーであり、地域自らが主体的に行っている優良事例として認められたことになる。
- これらの機会が、地域の励み・事業推進の原動力になっている。



■ 鉄道事業の対応

= にしがま線げんき戦略の作成（名鉄西尾・蒲郡線活性化協議会）

- 鉄道の利用者数の増加を目指すため、西尾市・蒲郡市等からなる活性化協議会を設置し、利用促進事業をまとめた「にしがま線げんき戦略」を平成28年7月にとりまとめている。
- 当該計画では、利用促進に加えて「誘客推進」を重要施策として位置づけ、ブランドづくりによるイメージアップ、ツアー企画の推進を目指す。

にしがま線げんき戦略

— 名鉄西尾・蒲郡線活性化策計画 —



名鉄西尾・蒲郡線活性化協議会
平成28年7月

■ 路線バスの対応

= 路線バスで行ける施設マップの配布（路線バス事業者）

- 既存の路線バスの利用促進として、自治体主導ではなく、交通事業者の主体的な取組として、バスマップの作成・配布が行われる。当該取組に際して、交通事業者だけの取組とはせず、交通会議の承認を得て、関係者の連携・協力を行っている。



■ 交通空白・フィーダーの対応

= 形原地区支線バス協賛募集事業の検討（形原地区公共交通協議会）

- 交通空白地対応として事業化したフィーダー系統（形原支線バス）の事業の持続性を担保するため、収支率による評価制度を導入している。形原支線バスの収支率を高めるため、地域の自主的な取組として「協賛制度」の導入を検討し、広告・協賛者の募集を地域自らがやっている。



■ フィーダーの対応

= 形原地区あじさいくるりんバス「1万人達成」

(形原地区公共交通協議会)

- 平成27年4月に形原地区で運行を開始した「あじさいくるりんバス」が、平成29年10月31日(火曜日)に利用者数1万人を達成しました。
- 記念品贈呈式を11月9日(木曜日)に形原公民館で行いました。

1万人目：山本様(形原町在住) 82歳

9,999人目：田中様(形原町在住) 75歳

1万1人目：橋本様(金平町在住) 71歳



= 形原地区あじさいくるりんバス「ぬりえ大会」実施

(形原地区公共交通協議会)

- 平成29年11月6日(月曜日)に、形原中学校グラウンドにて、あじさいくるりんバスぬりえ大会を実施しました。
- 形原地区の3つの保育園(形原保育園・形原北保育園・形原南保育園)の年長さん約70名が集まって、バスの乗車体験およびぬりえを行いました。



■ 見える化の推進

= 形原地区あじさいくるりんバス「ジョルダン乗換案内」での検索対応化（蒲郡市）

○ PC 検索画面



経路 1 **早 安 楽** 定期代

11:32発 → 11:52着 総額 **100円**
 所要時間 **20分** 乗車時間 **20分** 乗換 **0回**

印刷 テキスト

経路	乗車位置	運賃	指定席/料金	距離
ユトリーナ				時刻表
11:32-11:52 20分	[蒲郡市コミュニティ]あじさいくるりんバス左回り(形原公民館行)	100円		
形原公民館				

[条件変更](#)

※「公共交通利用促進ネットワーク」の協力を得て見える化を実施

○スマホアプリでも対応



○ルート地図

